



39人の元気な顔が揃って、9月がスタートしました！

9月に入り、また学校には子どもたちの元気な声が戻ってきました。39人全員の顔を見ることができ、ほっとしています。今年の夏休みも猛暑の連続で、天気予報では「真夏日」「熱中症に注意」「ゲリラ豪雨」などの言葉が繰り返されました。局地的な大雨や台風による痛ましい被害報道では、「これまで経験のない・・・」という声を聞くことができました。

また、今年、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックがブラジルで開催されました。世界のトップアスリートが0.1秒、0.1センチという記録の差で競い合う様子は、見る者の心を熱くさせてくれました。日本選手の活躍もあり、おかげで遅くまでテレビの前で応援していて寝不足になった方もいるのではないのでしょうか。

夏休みの間、保護者の皆様や地域の皆様には、子どもたちの安全を見守ってくださったことに感謝申し上げます。これから健康と安全に気をつけて、学習や学校生活に取り組ませていきますのでご支援、ご協力をお願いいたします。

夏休み中の出来事から・・・PTA美化作業

8月21日(日)、PTA環境美化作業が実施されました。延期のもの関わらず、多くの方々に参加していただき、グラウンドの草取り、トイレ清掃、側溝清掃、グラウンド周り・プール周りの草刈り作業等をおこないました。2時間ほどの作業で、どこも見違えるようにきれいになりました。暑い中の作業でしたが、最後まで力を合わせてきれいに片づけていただきました。どうもありがとうございました。また、今年はずった草を肥料袋に入れて、学校園で使う有機肥料作りに挑戦しました。

グラウンドの草むしり



ヘチマの周辺の草取り



とった草で有機肥料づくり



夏休み中の出来事から・・・北足柄の夏祭り ～ 地域を想う心を育てる ～

8月7日(土)に、内山、8月15日(月)には矢倉沢で夏祭りが行われました。どちらの夏祭りも、露店が並んでとてもにぎやかでした。露店は、地区の各種団体の皆様が協力して焼き鳥や射的など、子どもも大人も楽しめるものがありました。

今年も、お神輿かつぎや太鼓演奏など、地域の一員としての子どもの活躍の場がありました。地域の一員として、お祭りなどの行事に参加する子どもたちには、ふるさとの夏祭り経験を、いつまでも心の中に残しておいて欲しいものです。里帰りの方々も大勢見られているようで、にぎやかな夏のひとときを過ごされていました。



内山夏祭り



矢倉沢夏祭り

研修会前ごとの職員美化作業

今年度は、運動場の草を少しでも取り除くために、研修会前の30分間、職員作業を計画しました。限られた人数で行いますので、少しずつにはなりますが、それでもみんなの力を合わせると運動場の草の生えている範囲は減っていきます。夏休み中の職員研修は、7回ほど計画されていました。短時間ですが、集中して取り組むことが出来ました。朝起きてから作業することで、頭も体も起きた状態で研修会に参加することが出来ました。



校長の九州散策旅行 ～(自然・歴史・防災・文化を学ぶ)～

今年の夏休みに、九州方面へ出かけました。九州は、鹿児島県に次いで2回目になります。今回は、福岡・熊本・長崎・佐賀の4県で、九州にある城郭見学を主な目的に出かけました。

1日目は福岡空港からレンタカーで小倉城を見学しました。この日の夜は屋台で有名な博多の天神へ行きました。博多の屋台スポットは天神、中洲、長浜など数多くあるそうですが、どのお店も食べ物がおいしく、一人で行っても隣の客と話が出来るフレンドリーなところでした。一口餃子や焼きラーメンなどを食べながら、隣に座った韓国人のお医者さんと楽しいひと時を過ごすことができました。



小倉城

太刀洗平和記念館



2日目は福岡城を見学し、大宰府経由で阿蘇に向かう途中、うるは市に住む、以前に神奈川県で教員をしていた友人と再会しました。その土地で、太刀洗平和記念館の存在を初めて知りました。かつてこの地には、旧陸軍が東洋一を誇った太刀洗飛行場を中心とする一大軍都があったそうです。昭和20年(1945年)3月、米軍の大空襲により壊滅的な被害を受けました。また、この飛行場は特攻隊の中継基地として、多くの若き特攻隊員たちの出撃を見送った場所でした。特攻隊の基地というと鹿児島県の知覧を思い浮かべますが、この太刀洗飛行場が本来は中心だったようです。戦後71年が過ぎ、改めて感じたことは、多くの尊い犠牲のうえに現在の平和と繁栄があることを深く感謝し、これからも平和へのメッセージを発信し続けることだと思いました。その後、阿蘇の内牧温泉へ行き、大学時代の友人のホテルへ伺いました。しかし、ホテルは地震で温泉が出なくなったため、近くのホテルで温泉に入らせていただきました。幸いなことにホテルは他に地震の損害はなかったようですが、とにかく想像以上に大きく繰り返される揺れに驚いたそうです。近隣地域の墓地や屋根の倒壊の様子を見ると改めて被害の大きさに驚かされました。

石垣の崩れた熊本城

3日目は熊本城見学をしました。テレビなどで熊本城の被害は知っていましたが、実際に見てみると、その被害の大きさに言葉も出ませんでした。九州から帰った後の8月31日にまた震度4を記録した地震が起きました。そこで、熊本地震の本震(4月16日)で傾いていた奉行丸石垣の塀が長さ約20メートルにわたって倒れたそうです。屋根瓦が崩れた天守閣、石垣の崩れた櫓や塀を見て、復旧までには最低10年以上かかるといわれていました。1日も早い復旧を祈るばかりです。



土石流で埋まる民家



熊本から有明湾をフェリーで島原へ渡りました。島原城では、天守閣から有明湾や雲仙普賢岳を一望することが出来ました。その後、雲仙岳災害記念館に足を運びました。ここでは、1991年6月3日に発生した雲仙普賢岳の噴火で、火砕流・土石流により43名の犠牲者が出た様子について学びました。記念館近くには、土石流で埋まった民家が数軒、後世への記録として保存されていました。熊本城同様に実際に見て、その被害の大きさに驚きました。そして、自然災害に対して、普段からの備えの大切さを子どもたちにも伝えていかなければならないことを感じました。

また、雲仙普賢岳のある島原半島は、「島原半島ジオパーク」といわれ、2009年8月22日に日本で初めて認定された世界ジオパークでした。ジオパークは、南足柄市も箱根ジオパークの仲間入りを目指していることから、関心を持っていました。現在日本には、日本ジオパーク委員会が認定した39の「日本ジオパーク」があるそうです。また世界には、世界ジオパークネットワークが認定した33カ国120地域(2015年11月現在)の「世界ジオパーク」があり、日本からは島原半島(長崎県)を含め、糸魚川(新潟県)、洞爺湖有珠山(北海道)、山陰海岸(鳥取、兵庫、京都)、室戸(高知県)、隠岐(島根県)、阿蘇(熊本県)、アポイ岳(北海道)の8地域が、世界ジオパークに認定されています。 ※南足柄市は、9月9日に箱根ジオパークに編入されました。

午後からは長崎市内に向かいました。長崎原爆資料館では、原爆による被曝の惨状をはじめとして、原爆投下までの経過や核兵器開発の歴史、平和推進への取り組みなどが展示されていました。長崎は「ファットマン」と呼ばれた1発のプルトニウム型原子爆弾で、大勢の人達が亡くなるだけでなく、現在に至るまで原子爆弾の放射能被害によって苦しめられ続けることになりました。その後、長崎の平和公園やグラバー邸等の見学をし、夜は長崎新地中華街で長崎ちゃんぽんをいただきました。

最終日の4日目は、朝早く出発し平戸城まで向かいました。平戸城から佐賀県の唐津城を経由して福岡空港に戻り、歴史や防災、そして文化を数多く学ぶことが出来た九州散策旅行が終わりました。(水野)

長崎平和公園

